

学校法人扇城学園  
東九州短期大学  
機関別評価結果

平成 28 年 3 月 10 日  
一般財団法人短期大学基準協会

## 東九州短期大学の概要

設置者 学校法人 扇城学園  
理事長 梅高 賢正  
学 長 梅高 賢正  
A L O 篠原 壽子  
開設年月日 昭和 42 年 4 月 1 日  
所在地 大分県中津市大字一ツ松 211

### 設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
食物栄養学科		40
幼児教育学科		50
	合計	90

### 専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

### 通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

## 機関別評価結果

東九州短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 28 年 3 月 10 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 26 年 7 月 8 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神は、浄土真宗の精神に立脚し、「知育中心の専門教育にとどまることなく、宗教的情操教育に根ざした豊かな人格形成に主眼を置くもの」であり、建学の精神の下、「知徳の合一した健全有為な人材の育成」を教育理念としている。建学の精神と教育理念は教育方針として具体化されており、「アセンブリーアワー（礼拝）」をはじめとする授業科目や教職員対象の宗教教育研修会等を通じて学生や教職員に共有されており、また学外に対しても、ウェブサイト、大学案内や学校行事において広く公表されている。

教育の質については、法令を順守し、客観的な指標に基づく学習成果の評価を通して、保証されている。学科レベルでの学習成果は、免許・資格取得率及び就職率、卒業生アンケート、就職先アンケート等で評価している。

自己点検・評価については学内規程に基づき、全学をあげて組織的かつ継続的に PDCA サイクルを活用して実施されている。また、平成 15 年度から九州龍谷短期大学と短期大学間相互評価を実施しており、学校法人運営及び教育内容の改善に生かしている。

教育課程は、教育課程編成・実施の方針に沿って編成、実施されており、学位授与の方針に対応している。入学直後のオリエンテーションにおいて、各学科では学習の動機付けに焦点を合わせた学習方法や科目選択のためのガイダンスを実施している。さらに「ゼミナール I」で、それぞれの学科の特性に応じたリメディアル教育を実施し、基礎学力が不足する学生に対し補習授業を行うなど、学習成果の獲得に向けてきめ細かい丁寧な学習支援が行われている。

学習支援及び生活支援の組織として、学生支援センターが設置されており、進路支援は、各学科の教員が中心に、学生支援センター職員と協力しながら行われている。また、学科別に「キャリアプランニング」の授業科目を開講し、就職講座等を企画して、就職支援のための取り組みを行い、専門職への高い就職率を維持している。

入学者受け入れの方針は、学位授与の方針の実現を可能にするための学生像を示すものとして設定されており、学生募集要項やウェブサイトで学内外に公表されている。

専任教員については短期大学設置基準を充足する教員数を配し、学科の教育課程編成・

実施の方針に基づいて、適正に教員組織が整備されている。教員の採用及び昇任は「東九州短期大学就業規則」に基づいて適正に行われている。専任教員は、教育課程編成・実施の方針に基づいて研究活動を行い、学会誌及び「東九州短期大学研究紀要」などにその成果を発表しており、外部からの研究費獲得の実績も有している。FD活動は規程に基づいて実施されており、平成24年度からは、学生による授業評価アンケートの結果も踏まえて公開授業と研修会を実施し、授業改善に取り組んでいる。

事務組織に関しては、「学校法人扇城学園事務組織規程」に沿って組織され、責任体制も明確である。SD活動については、学外のSD研修会へ積極的に派遣しており、職員の能力と資質向上に向けた取り組みがなされている。

校地・校舎は、短期大学設置基準を充足し、適切で十分な面積を有している。施設設備は学科の教育課程編成・実施の方針に基づき整備され、また、ICT活用による教育環境の整備を図り、教職員の活用技術向上にも取り組んでいる。

財務状況は、学校法人全体の帰属収支は、過去3年間収入超過であるが、短期大学部門の帰属収支は平成24年度及び26年度に支出超過である。学校法人全体としてはおおむね健全である。

理事長は、建学の精神、教育理念及び教育目的ののっとり、学校法人全体を掌握して、寄附行為に基づき、運営全般にリーダーシップを発揮している。

学長は理事長が兼任しており、建学の精神を唱導して教育研究を推進し、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。

監事の業務及び評議員会の運営は、寄附行為に基づき行われており、ガバナンスが適切に機能している。また、教育情報・財務情報はウェブサイトで公表・公開されている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

#### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマA 建学の精神]

- 建学の精神の具現化を図る取り組みとして、「アセンブリーアワー（礼拝）」を、学生及び教職員を対象に年間7回実施している。「アセンブリーアワー（礼拝）」を「こころの教育」の実践と位置付け、学生に対しては必修科目の「宗教学Ⅰ」と併せて、建学の精神の理解を自らの学習成果として結び付けられるよう工夫している。

## 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ B 学生支援]

- 進度の速い学生や優秀な学生には、実践力を培わせるとともに、他の専門職の人との連携の重要性を実感させるために学外で様々な活動を体験させている。専門職を目指す学生にとって実践力の養成とともに将来の職業について考える貴重な機会ともなり、キャリア教育としての側面をもつ取り組みである。

## 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

- 学生ホールには、インターネットに接続したパソコン、プリンター、DVD 教材などを配備し、学生が文献、資料、電子情報を活用して主体的に学べるラーニングコモンズとしての機能をもたせている。さらに、利用する学生も多いため図書館内にもラーニングコモンズを新設した。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

## 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ B 物的資源]

- 老朽化が進んでいる建物もあり、計画されている耐震診断の結果を踏まえ、中期計画を策定し、教育環境の改善に取り組むことが望まれる。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

#### 各基準の評価

##### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神は、大乘仏教の精神、とくに親鸞聖人が顕かにされた浄土真宗の精神に立脚し、「知育中心の専門教育にとどまることなく、宗教的情操教育に根ざした豊かな人格形成に主眼を置くもの」である。建学の精神の下、知徳の合一した健全有為な人材の育成を教育理念としている。建学の精神と教育理念は五つの教育方針として具体化されており、建学の精神を学生に周知するための特設科目「アセンブリーアワー（礼拝）」をはじめとする授業科目や教職員宗教（人権）教育研修会等を通じて学生・教職員に共有されている。また、建学の精神は、保護者や一般に対しても、ウェブサイト、大学案内や学校行事等において広く公表されている。

学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令等の改正に当たっては、迅速に対応し、学則をはじめ学内諸規程の見直しが行われている。教授会の審議・決定後、教職員会議を通じて全教職員に周知徹底されている。

学科レベルの学習成果を査定する客観的指標として、卒業生の就職率、食物栄養学科における栄養士免許、幼児教育学科における幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得率を活用している。一方、科目レベルでは、シラバスに明示する「到達目標」、「評価の方法」や授業評価アンケートによって査定を行っている。さらに卒業生アンケート、就職先アンケートを実施し、その結果をPDCAサイクルにフィードバックして教育改善に取り組んでいる。

自己点検・評価については「東九州短期大学自己点検・評価委員会規程」に基づき、委員会が設置され、各規程に沿って組織的に実施している。自己点検・評価活動は、各種アンケート調査や短期大学間相互評価等を含め、全教職員が関与するとともに、教職員は常にPDCAサイクルを念頭に置きながら業務に当たっている。平成15年度に始められた九州龍谷短期大学との短期大学間相互評価は平成26年度で9回目となり、相互評価を通して継続的な改善活動に取り組んでいる。なお平成24年度から、各学科で公開授業を実施し、自己点検・評価の成果がどのように活用されているかを検討している。

##### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針は、建学の精神に基づいた教育目標の下に定められ、学習成果が示され

ており、大学案内やウェブサイトで学内外に公表されている。卒業の要件、成績評価の基準等は学則に明確に示されている。学習成果の一つである栄養士、保育士、幼稚園教諭等の免許・資格は、社会に奉仕・貢献できる人材の育成という教育目標から設定されたものであり、社会的に十分通用するものといえる。各学科の学位授与の方針に基づき、教育課程編成・実施の方針を定め、教育課程を体系的に編成し実施されている。授業計画には必要な項目が明示されており、学生に分かりやすいように授業の概要や到達目標が具体的に表記されている。

入学者受け入れの方針は、それぞれの学科の教育目標や学位授与の方針を達成するために設定されている。また、この方針に基づき、様々な入学者選抜方法について「入学者選考規程」を作成し、学生募集要項やウェブサイトで学内外に公表されている。

学習成果の獲得に向けて学習支援センターと協同でオリエンテーションを実施し、教員は、学則に規定されている成績評価基準により定期試験等において厳正に評価・判定している。また、学生による授業評価の結果は数値で表すとともに、それぞれの担当科目についても授業評価の結果を基に、授業内容を検討し、PDCA サイクルによる授業方法の改善を図っている。平成 24 年度より教員は毎年授業実施報告書を提出し、次年度の授業に活用している。

各学科では、入学後のオリエンテーションにおいて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習方法や科目選択のためのガイダンスを実施している。さらに、「ゼミナールⅠ」で、それぞれの学科の特性に応じたりメディア教育を導入し、基礎学力が不足する学生に対して補習授業を行っている。また、進度の速い学生や優秀学生に対しては習熟度別授業や補足的な学習指導に加えて、学外で様々な活動を体験させるなど、学習成果の獲得に向けてきめ細かな、丁寧な学習支援が行われている。

学習支援及び生活支援の組織として、学生支援センターが設置されている。クラブ活動、大学祭、地域におけるボランティア活動や学友会活動等、学生が主体的に参加する活動への支援は、学生支援センターの教職員（主に生活支援担当者）を中心に行われている。

健康管理については、毎年度当初に定期健康診断や、学生生活を健康で安全におくるための自己診断を実施している。平成 26 年度から学生相談室を立ち上げ、外部カウンセラーの委嘱を行い、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制整備に努めている。

進路支援については、各学科の教員が中心となり、学生支援センター職員と協力しながら行われている。また、学科別に「キャリアプランニング」の授業科目を開講し、就職講座等を企画して、就職支援のための取り組みを行い、専門職への高い就職率を維持している。

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

専任教員については、短期大学設置基準を充足する教員数を配し、学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて、適正に教員組織が整備されている。教員の採用及び昇任は「東九州短期大学就業規則」に基づいて適正に行われている。

専任教員は、教育課程編成・実施の方針に基づいて研究活動を行い、学会誌及び「東九州短期大学研究紀要」などにその成果を発表しており、外部からの研究費獲得の実績も有している。FD 活動は、規程に基づいて実施されており、平成 24 年度から、授業改善を目指し

て公開授業を実施している。実施後の研修会で授業改善について検討が行われており、その内容については、専任教員間で共有化が図られている。

事務組織に関しては、「学校法人扇城学園事務組織規程」に沿って組織され、責任体制も明確にされている。SD 活動については、規程に基づいて実施されており、学外の SD 研修会へ積極的に参加させる体制がとられており、職員の能力と資質向上に向けた取り組みがなされている。

校地・校舎は、短期大学設置基準を充足し、体育館、図書館も適切な面積を有している。なお、老朽化が進んでいる建物もあり、計画されている耐震診断の結果を踏まえ、中期計画を策定し、教育環境の改善に取り組むことが望まれる。

食物栄養学科、幼児教育学科共に、教育目的を達成するための一般教室、演習室、実験・実習室等が整備されている。

固定資産管理、貯蔵品管理及び防災管理に関しては、それぞれ学校法人の規程に基づき適切に実施されている。情報セキュリティは、ファイアーウォールの整備等に対応するとともに、サーバにはホスティングサービスを利用している。

技術的資源としては、情報関連の講義演習、情報技術の向上に関するトレーニングを行う施設として ICT 教室を整備している。また、学生ホールにインターネットを接続したパソコン、プリンター、DVD 教材などを配備し、学生が文献、資料、電子情報を活用して主体的に学べるラーニングコモンズとしての機能をもたせている。さらに利用する学生も多いため図書館内にもラーニングコモンズを新設した。

学校法人全体として、帰属収支は、過去 3 年間収入超過であり、おおむね健全である。なお、短期大学部門においては、平成 24 年度及び 26 年度の帰属収支で支出超過となっており、経営改善計画を具体化し実施されたい。

#### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、学園創設者の梅高秀山の玄孫であるとともに、創設者の意思を継承し、建学の精神を重んじ、教育理念・教育目的の下、学校法人全体を掌握して寄附行為に基づき、運営全般にリーダーシップを発揮している。

理事長は、寄附行為に基づき理事会を開催し、学校法人の意思決定機関として適切に運営している。また、理事長は、理事会で審議決定した決算及び事業の実績報告を評議員会に報告し、意見を求めている。

学長は、建学の精神の具現化を図る取り組みを行い、短期大学の運営責任を担い、運営全般にリーダーシップを発揮している。教授会は、規程に基づき、学長が開催し、教育研究上の審議機関として運営されている。また、学内における円滑な教育活動を遂行するため、規程に基づいて 11 の各種委員会を適切に運営している。

評議員会は、寄附行為により、理事定数の 2 倍を超える数の評議員で組織されており、寄附行為に基づいて開催され、理事長の諮問機関としての役割を果たしている。

監事は、寄附行為に従い、選任されている。また、監事は学校法人の業務又は財産の状況を監査し、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 か月以内に理事会・評議員会に提出するとともに、意見を述べている。

事業計画及び予算については、設置校ごとの意見を集約し、中期的な展望と照らし合わせながら作成され、各部署の要望が十分に反映されており、年度当初から適切に執行されている。計算書類、財産目録は、経営状況及び財務状態を正確に表示している。また、公認会計士からの監査意見に対しても対応している。情報公開については、学校教育法施行規則及び私立学校法に基づき、教育情報、財務情報をウェブサイトで公表・公開し、社会に対する説明責任を果たしている。

## 選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

## 地域貢献の取り組みについて

### 総評

一般市民を対象とした公開講座が、昭和50年代後半より開催され、この講座は約35年の歴史をもっている。現在実施されている公開講座は、定期的で開催される「夏期オープン講座」、「東九州短期大学公開講座」と不定期で開催される「特別講座」である。

いずれの講座も学科の特性を生かしたものであり、地域のニーズに対応した、市民に親しみやすい実学的な内容となっている。また、不定期に開講される「特別講座」は、社会的に話題になっているテーマや要望の多いテーマが取り上げられ、時宜を得た企画となるように工夫されている。

大分県や中津市等の地方自治体との連携事業、学校法人、高等学校及び地場産業等との活発な交流・協力により地域の文化振興や産業の活性化に取り組んでいる。

全学的な取り組みとしては、環境啓発を目的として毎年開催されている「アースデイ中津」に両学科が郷土料理やダンスなど特性を生かして参加協力している。また、中津市における子育て支援の一層の充実を図ることを目的とし、中津市の委託による「中津市愛育研究センター」事業を運営している。

学科の取り組みとしては、食物栄養学科教員と学生が、大分県の「食」に関する事業に参加しており、食育（おおいたWA-SHOKU運動）や食品衛生に関する事業（食品表示安全モニター）に取り組んでいる。その他、医師会・歯科医師会との「糖尿病教室」の共催、JA おおいた中津支所との連携事業（平成26年度）、地域おこし協同事業への参加、及び特産品を使ったオリジナルレシピコンテスト（大分県主催・推進事業）への参加など多彩な活動に取り組んでいる。幼児教育学科では、学科の特色である「表現活動」の一環として「中津市健康づくり推進大会」などイベントに参加して着ぐるみ劇を発表している。学生にとっては、これらの取り組みで他職種の人や地域の人々と接触することにより、専門職の仕事を身近に感じると同時に将来の就職への意識付けにもなっている。

教員は地方自治体あるいは各種団体が主催する研修会などの講師、文化施設の運営委員等としても活動している。また当該短期大学は、近隣の高等学校3校と「高大連携教育交流」協定を締結し、各学科の特性を生かした連携教育交流授業にも積極的に取り組んでいる。

全学生は原則としてボランティア・サークル（HKT）に所属し、学友会を中心に活動し

ている。中津市及び近郊の地方自治体や様々な施設等からの要請に応え各種イベントの運営ボランティアや、教職員の指導の下で食育や学童保育といった学科の特性を生かしたボランティアに取り組んでいる。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

地域に唯一の高等教育機関として、地域文化の担い手として、また子育て支援の拠点として当該短期大学への期待は大きい。それに応えるべく、食物栄養学科と幼児教育学科を擁する短期大学として、その特色を生かした内容の公開講座や中津市の委託を受けた子育て支援事業に継続的に取り組み、地域の要請に十分応える成果をあげている。

#### ○ 公開講座の開催

「夏期オープン講座」は、小学生・中学生・高校生を対象に実施されている。「手作りパン講座」は、毎年すぐに定員を充足する人気講座となっており、「理科実験講座」も参加した親子から毎回好評を得ている。

「東九州短期大学公開講座」は、調理実習を主体として4回の講座が開講され、例年定員を上回る受講生を集めている。受講者はおおむね食育推進グループの人や給食ボランティアの人たちを中心としており、生涯学習の一環としての役割も果たしている。特に郷土料理の講座では、受講者を通して郷土の伝承料理を、家庭や地域の若い人達に伝えることにも配慮した内容となっている。

幼児教育学科は、毎年「チャイルドフェスティバル」を開催し、児童文化の素晴らしさを地域に積極的に発信する公開講座としての役割も果たしている。

#### ○ 「中津市愛育研究センター」事業

「中津市愛育研究センター」事業は、中津市から委託事業費を受けており、子育て家庭の育児不安について、相談や助言を行い、安心と自信をもって子育てをしていく知識やノウハウの習得、子育てしやすい環境整備や子育てネットワーク等をつくっていく方策等を学習していくことによって、中津市における子育て支援の一層の充実を図ることを目的としている。

その事業構造は4部門に分かれており、①育児・子育て相談、②子育て関連各種講座、③自然ふれあい食育教室、④地域おこし、世代交流事業となっている。

これまで、多くの事業・講座を開設しているが、アンケート調査の結果は、参加者から高い評価を得ていることを示している。